

第7回 仙台医療介護連携の会

ご報告

開催日時:平成27年2月10日(火)18:30~20:30

会場:仙台サンプラザホテル

内容

【情報提供】

「燕沢地域ケア会議について」燕沢地域包括支援センター折腹様
「仙台医療介護連携の会 第1回~6回のまとめ」事務局

【グループ討議】

「最期まで在宅で過ごせるというのを市民にどう伝えていくか。各職種でできること。」

出席委員 19名(仙台市圏域を中心に構成)

市医師会2、市歯科医師会1、市薬剤師会2、県看護協会1
県訪看護連絡協議会1、県ケアマネ協会1、市地域包括協議会1
市老人福祉施設協議会2、県老人保健施設協議会1、県認知症グループホーム協議会1、仙台介護サービスネットワーク1、県病院協会3、学識経験者2

オブザーバー名

宮城県:医療整備課2



最期まで在宅で過ごせるというのを市民にどう伝えていくか

Aグループ

医療でも、24時間の医療、救急ではなくて、**ちょっと心配なところに医療に繋がる**ような下地、地域の医療と介護がやっぱり連携していくべきだと思う。

個別ケアの積み重ねで、結局それが地域とも協働できればいいんだと思う。我々が作らなければならないのは、**医療も含めたよろず相談所、その充実**ではないか。

本人、家族への「**人間が死ぬ過程**」についての**在宅で医療介護の人、全員が説明**でき、その過程でコミュニケーションも取れる体制を作る事が必要。

老人ホームは、入所の相談が多いパターンだが、「**在宅で看取れる**」ということを知らない方が多い。実際(在宅で過ごす)イメージは出来ても、不安はどうしてもあって、一歩踏み出せていないようだ。

在宅で看取ることができると、専門職から積極的に話をしても、**家族の方が受け入れない**。受け入れる方は、資力、マンパワーのある方に見受けられる。

在宅に**現実に社会資源がちゃんと揃っている**ことが必要ではないか。

せっかく連れて帰ったが**家族が、親戚の中で孤立無縁**になってしまうなどある。最期まで家で過ごせることの**メディアを通じたPR**も必要。

新聞も広報も出しているでも全然目に付かない。たぶん、**理念などの普及啓発と本当に必要な人は孤立・負担にならない**という伝え方の二面性を考えなければならないのではないか。

ケアマネからも、本人の思いはあれど家族の思いで最終的に特養入所をゴールにしているところもある。**施設入所がゴールではなく、施設入所→在宅復帰を目指す**ような柔軟な対応を広げようという動きもある。

Bグループ

市民向けの講座など、現在も行われているものを利用し、**もう少し深い話し**をする必要がある。

救急救命の場合、治癒をあきらめきれないという要素があるが、**大事な時間をどこで過ごしていただくのか**ということについて、**医師も含めて患者や家族へ話せるようになる**ことが必要。そのための**専門家への研修**も必要ではないか。

家族が、**身内の死を学ぶ機会が減った**。本場に**フォーラム**などを開いて、**頻繁にメッセージ**として、**急変時の対応を含め市民へ解りやすく伝えていく**必要性があると思う。

結局、病院にいても家族の負担は減らない。付き添いもある。その中で、**家で看ると**いう選択肢を選ぶ方も多思う。家では、**普段の関わりから、自分の生き方について話ができる関係を作り、それを少しでも専門家は把握する**必要がある。

病院との関わりの中で、**連携室の相談員と仲良くなる**事が地域の中で看取りを進めていくためには必要なことであると思う。

在宅で看取った事例について、病院も交えて**カンファレンス**を実施した。このように**多職種を交えた場をつなげていく事**で、**間接的にも市民へ伝えていく事ができる**ようになるのでは。

協議会や協会などの中での研修会の実施や、同職種での連携も大事になってくるのではないか。

今まで訪問看護などのところから積極的に市民へ発信してこなかった。研修も必要ではあるが、**市民へメッセージを発信**することもやらなければならないと思う。

訪問できる事業所の内容を把握した上でのマップ化は必要だと思う。

Cグループ

医師教育の中には、ますます在宅へ繋ぐというその過程がない。**地域支援をしている病院への研修へもっと参加**できるようにすべき。

病院も地域連携センターが中心となって、**紹介元以外に直接地域へ返していく**という動きが加速した。その影響も受けると思う。

医療も介護の事業所情報を持っている行政は、**まずそれを伝えていく**ことが必要。

草陰的に、自分の受け持っている患者さんで**在宅でこういうふうにやりました**とか、**ケースがあった**とかを必要に応じて本人や家族に伝えていく。訪問看護ステーションにも協力してもらったりして、**広げていく**ような工夫も必要。

介護サービスの**24時間切れ目ないサービス**の整備を図る

充実を図ると同時に、**フォーラムなどの一般市民向けのイベント**を開いて広報する。

24時間往診可能な医療と訪看の充実。24時間の先生が関わって頂かないと、在宅の看取りは厳しいのではないか。

ミニ講座や交流会を行いながらの**地域づくり**。会を重ねるごとに地域が作られていくような機会があるといいのではないか。

実際にケアマネジャーなどによるサービスの説明をわかりやすくして必要がある。

インターネットにある情報のリンクによる情報発信も必要ではないか。